

主体的に学習に取り組む児童を育てる 少人数指導に関する研究

－目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元をデザインして－

北上市立南小学校 教諭 黒 渕 公 子

I 研究目的

学習指導を進めるに当たっては、児童が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や児童の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、教師の協力的な指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ることが求められている。

しかし、実際には、指導体制を変えても一斉指導のときと変わらずに課題解決がすぐに終了してしまい時間をもてあましている児童や、自分なりの解答を求めることができずに学習意欲が低下している児童も見受けられる。少人数指導においても同様のことがいえる。これは、教師が少人数指導を行う目的を明確にもつことができなかつたことや、学年の発達段階や指導のねらいに応じた少人数指導を取り入れてこなかつたことによるものと思われる。

このような状況を改善するためには、児童の興味・関心を高める、基礎学力の定着を図る、児童相互の考え方を深める、といった指導の目的や意図を明確にした少人数指導を位置付け、単元をデザインしていく必要がある。

そこで、この研究は、小学校算数科において、目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元をデザインすることをとおして、主体的に学習に取り組む児童を育てる少人数指導について明らかにし、学習指導の改善に役立てようとするものである。

II 研究仮説

学習指導を進めるに当たって、目的や意図に応じた少人数指導を行う段階や方法について全体構想が分かるように単元をデザインし、それに基づいて学習指導を行えば、主体的に学習に取り組む児童が育つであろう。

III 研究の内容と方法

1 研究の内容

- (1) 主体的に学習に取り組む児童を育てる少人数指導に関する基本構想の立案
- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察並びに手だての試案の作成
- (3) 目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた小学校算数科における単元のデザイン
- (4) 授業実践
- (5) 実践結果の分析と考察
- (6) 主体的に学習に取り組む児童を育てる少人数指導に関する研究のまとめ

2 研究の方法

- (1) 文献法 (2) 質問紙法 (3) 授業実践 (4) テスト法

3 授業実践の対象

北上市立南小学校 第3学年 1学級 (男子20名 女子15名 計35名)

IV 研究結果の分析と考察

1 主体的に学習に取り組む児童を育てる少人数指導に関する基本構想

(1) 主体的に学習に取り組む児童を育てる少人数指導に関する基本的な考え方

ア 主体的に学習に取り組む児童とは

主体的に学習に取り組む児童とは、「学習する喜びを感じながら、意欲をもって自ら学習活動を進めていくことができる児童」ととらえる。学習する喜びは、「おもしろそうだな」「やってみたいな」という学習活動に対する興味・関心から生じ、学習内容を理解したいという思いや願いに支えられ、学習活動を行うことによって「分かった」「できた」という成就感や満足感へと高まっていくものである。こうした学習する喜びを得るためには、学習内容の理解が不可欠である。なぜなら、学習内容の理解が図られたことによって得られる成就感や満足感が、次の学習活動への意欲となり、児童自らが学習活動を進めていくための原動力になると考えるからである。

児童が主体的に学習に取り組むためには、一人一人が問題や課題に興味をもち、課題解決に向けて探究活動を行ったり、自分が探究した軌跡をまとめ発表したり、自分の活動について振り返ったりという一連の学習活動において、自分が持っている力を十分に発揮することが大切である。

そこで、本研究では、主体的に学習に取り組む児童に必要な力を、「探究する力」「発する力」「見つめる力」の三つと考えて研究を進めることと

【表1】主体的に学習に取り組む児童に必要な力の構成要素

構成要素	意味
探究する力	問題や課題に対する答えを探し出す力
発する力	自分の考えをまとめたり、発表したりする力
見つめる力	自分の学習活動を振り返り、次の学習時間での自分の目標をたてる力

し、それぞれの力の意味を【表1】に示す。これら三つの力は、互いにかかわり合いながら育成されていくものであり、これらの力が育成されることにより、児童の学習意欲は向上し、主体的に学習に取り組むようになる

イ 主体的に学習に取り組む児童を育てる少人数指導とは

今求められている学習指導は、児童に豊かな人間性や基礎・基本を身に付けさせ、個性を生かし、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を培うことを基本的なねらいとしたものである。そのためには基礎・基本をじっくり学習できるようにするとともに、個に応じた指導の一層の工夫改善を図り、児童が主体的に学習に取り組むことができるよう、一人一人の学習状況に応じる必要がある。

少人数指導は、一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図るために取り入れられた指導形態の一つである。一人一人の学習状況を瞬時に把握し、一人一人に応じた指導を行うことができる少人数指導を一斉指導と組み合わせて行うことによって、主体的に学習に取り組む児童を育てることができる

(2) 目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元をデザインすることについての基本的な考え方

ア 目的や意図に応じた少人数指導とは

学習指導の形態は、一斉指導、ティーム・ティーチング指導、少人数指導など様々あり、それぞれ

の指導形態にはメリットやデメリットがある。一斉指導のメリットは、学級の児童全員が同時に同一内容を効率よく学ぶことができるという点、多くの考え方に触れることができるという点などである。少人数指導のメリットは、少人数を対象に指導を行うことで、児童の個性を積極的に生かし伸ばしていくことができるという点、複数の教師の目でより深く児童を見ていくことができるという点などである。反対に、一斉指導のデメリットは、児童一人一人の実態に応じた時間の運用が難しい点であり、少人数指導のデメリットは、複数の教師が学習指導に携わるため、教師の連携を図ることが難しい点などである。

このようなデメリットに対応するために、少人数指導を行う際の目的や意図を明確に示すことが必要である。「児童にどんな力を身に付けさせるための少人数指導なのか」を教師に明確に示すことによって、一人一人に応じたきめ細かな指導の充実が図られると考えるからである。

そこで、本研究では、主体的に学習に取り組む児童を育てるために、次の三つの目的や意図に応じた少人数指導を取り入れ、研究を進めていくこととする。一つ目は「児童の興味・関心を高める少人数指導」、二つ目は「基礎学力の定着を図る少人数指導」、三つ目は「児童相互の考え方を深める少人数指導」である。この三つの少人数指導は、児童の実態に応じて取り入れ方が変わるものとする。

イ 目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元をデザインするとは

(ア) デザインとは

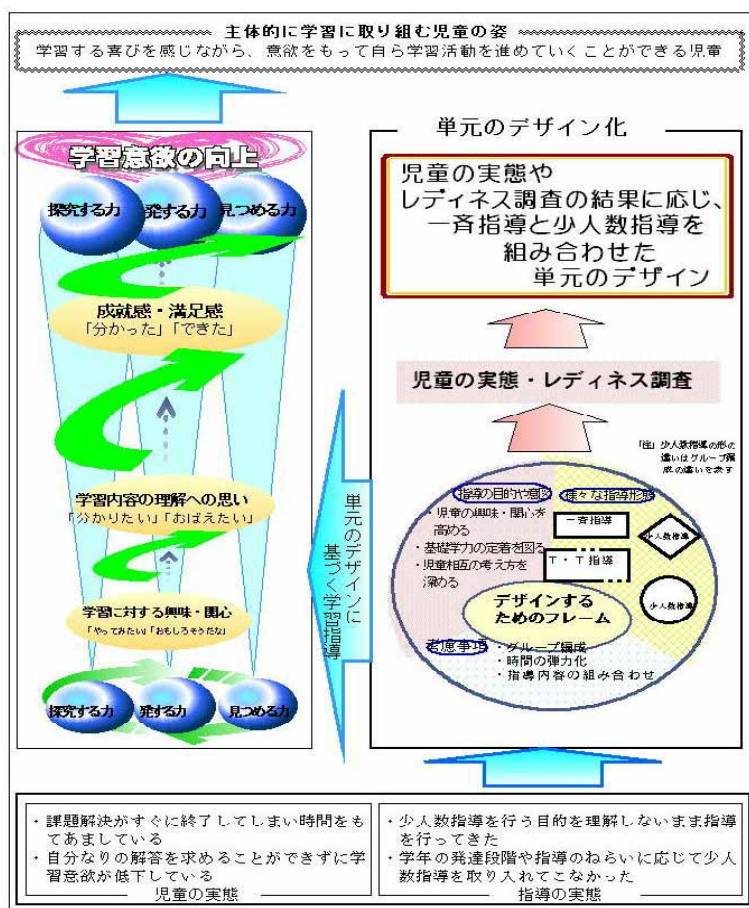
本研究では、「デザイン」を次のように定義する。指導構想及び計画を立てるまでの行為を含めて「単元をデザインすること」または「単元のデザイン化」とし、また、できあがって図案化された指導構想及び指導計画を「単元のデザイン」と称する。

(イ) 目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元をデザインするとは

目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元をデザインするとは、児童の実態やレディネス調査の結果から得られた情報により、単元のどの段階にどんな少人数指導を取り入れたらよいかを考えたり、学習内容の発展性を考慮し指導内容の組み合わせを考えたり、学習活動を保障するための時間の運用の仕方などを考えたりすることである。そして、デザインするためのフレームの中から「指導の目的や意図」「指導形態」「考慮事項」といった内容を組み合わせて、単元全体の指導構想が一目で分かるように、「単元のデザイン」を示すことである。

(3) 主体的に学習に取り組む児童を育てる少人数指導に関する基本構想図

これまで述べてきたことをまとめたものが【図1】の基本構想図である。



【図1】主体的に学習に取り組む児童を育てる少人数指導に関する基本構想図

2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察並びに手だての試案の作成

本研究では、手だてとして「単元のデザイン」を考えている。実態調査及び調査結果の分析と考察について述べる前に、「単元のデザイン」について述べる。

(1) 目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元のデザイン

ア 単元をデザインする手順

単元をデザインする手順について以下に示す。

- ① **児童の実態を把握する** まず初めに、教材研究を行い、単元の学習を進めるに当たって必要な児童の情報を把握するための調査問題を作成する。その後、実態調査やレディネス調査を行う。調査の結果を分析することによって、児童の実態及び問題点や課題を把握する。
- ② **単元のデザイン化** 調査の結果から明らかになった問題点や課題を、デザインする際の情報として取り入れ、問題点や課題に対応するように、フレームの組み立てを考える。
 - (1) **少人数指導を位置付ける** 実態調査やレディネス調査の結果から、単元のどの段階こどの少人数指導を取り入れることが効果的であるかを考え、少人数指導を位置付ける。
 - (2) **グループ編成を工夫する** 少人数指導を行う際は、目的や意図に応じたグループ編成が必要である。興味・関心別、習熟度別、活動別など、どのようなグループ編成を行うのかを明記する。
 - (3) **弾力的な時間の運用を位置付ける** 実態調査やレディネス調査の結果から、学習活動を進めるに当たって時間を多く必要とする場面はどこかを考える。児童一人一人が十分に自分の考えをもつための時間や話し合いをするための時間など様々な場面での時間の運用を考え、時間の運用の仕方を明記する。
 - (4) **学習内容の発展性を考える** 単元をデザインするに当たっては、学習内容をどのように発展させるかについて考える必要がある。学習内容の系統性を考え、単元の学習で身に付けた力を使って考えることができるような学習活動を位置付け、明記する。
- ③ **単元のデザインを示す** ①②の手順に従って作成したものを、単元のデザインとして示す。
- ④ **デザインの修正** 単元の学習を進めていく中で、デザインの修正を加えることもあり得る。

イ 単元のデザイン化（本資料においては省略する）

ウ 検証計画

本研究は、小学校算数科において研究を進めることとする。

(ア) 検証内容と方法及び処理の方法

小学校算数科における目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元をデザインし、デザインに基づいた授業実践の妥当性をみるために、【表2】【表3】のような検証計画を作成した。

【表2】 検証内容と方法及び処理の方法

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
主体的に学習に取り組む児童に必要な力の育成状況	①探究する力 ②発する力 ③見つける力	①②について ・テスト法で、事前事後に実施する ③について ・授業の終末時に感想を書かせる	①②について ・t検定（平均の差の検定）により、結果を分析し考察する ②について ・判断するための基準に基づき、ノートへの記述内容・発表の様子について分析し考察する ③について ・判断するための基準に基づき、感想の記述内容を分析し考察する

【表3】 児童のノートの記述内容について判断するための基準

構成要素	判断場面 判断時間	A (十分満足)	B (おおむね満足)	C (努力を要する)
		発 自 力 解 決 時 発 表 原 稿 の よ う に ま と め た り 、 メ モ を と つ た り す る こ と が で き る ③④⑤⑥	・自分の考えを 発表原稿のよ うにまとめた り、メモをと ったりするこ とができる	・考えをまとめ るための観点 に従って、自 分の考えをま とめることが できる
【注】 ~~~~~ 以下は、本資料では省略する				

(イ) 授業実践にかかわる調査計画

目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元のデザインが児童及び教師にどのように受け止められたかを確かめるため、また、学習内容の習得状況を把握するために【表4】のような調査計画を作成した。

【表4】調査計画

調査項目	調査内容	調査方法	処理・解釈の方法
単元で学習する内容の習得状況	①知識・理解 ②表現・処理	・テスト法で事後に実施する	・学校で用いている市販のテストを実施し、単元の学習内容の定着状況を分析し考察する。なお、テスト用紙については省略する
学習に取り組む意識の状況	学習意欲	・質問紙法により、事後に実施する	・評定尺度の選択人数の割合から分析し考察する
単元のデザインに基づいた授業についての意識の状況	単元のデザインに関する意識	・質問紙法により、実践途中に実施する ・授業実践を一層に行った教師に対してアンケートをとる	・評定尺度の選択人数の割合から分析し考察する ・アンケートの記述内容を分析し考察する

(2) 目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元をデザインすることにかかわる調査及び結果の分析と考察

ア 調査の目的と内容

(本資料においては省略する)

イ 調査結果の分析と考察

(本資料においては省略する)

ウ 調査結果から明らかになったこと

及び課題 (本資料においては省略する)

エ 単元をデザインするに当たって (本資料においては省略する)

オ 調査結果から明らかになったこと及び単元のデザイン化 (本資料においては省略する)

3 目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた小学校算数科における単元のデザイン

【図2】に、授業実践対象学級である北上市立南小学校第3学年1学級の実態調査から得られた情報を取り入れ、フレームを組み立てた算数科のデザインを示す。なお、本研究は図形領域で研究を進めていくこととする。

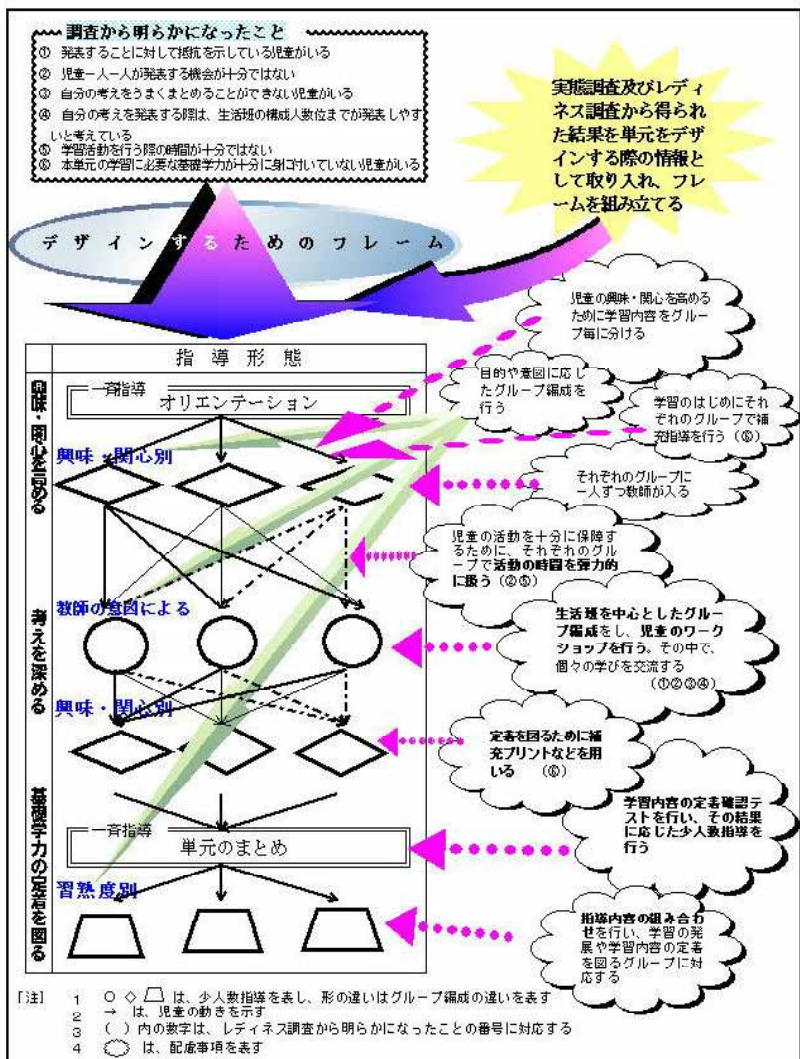
4 授業実践

(1) 単元「四角形をしらべよう」の学習指導案

(本資料においては省略する)

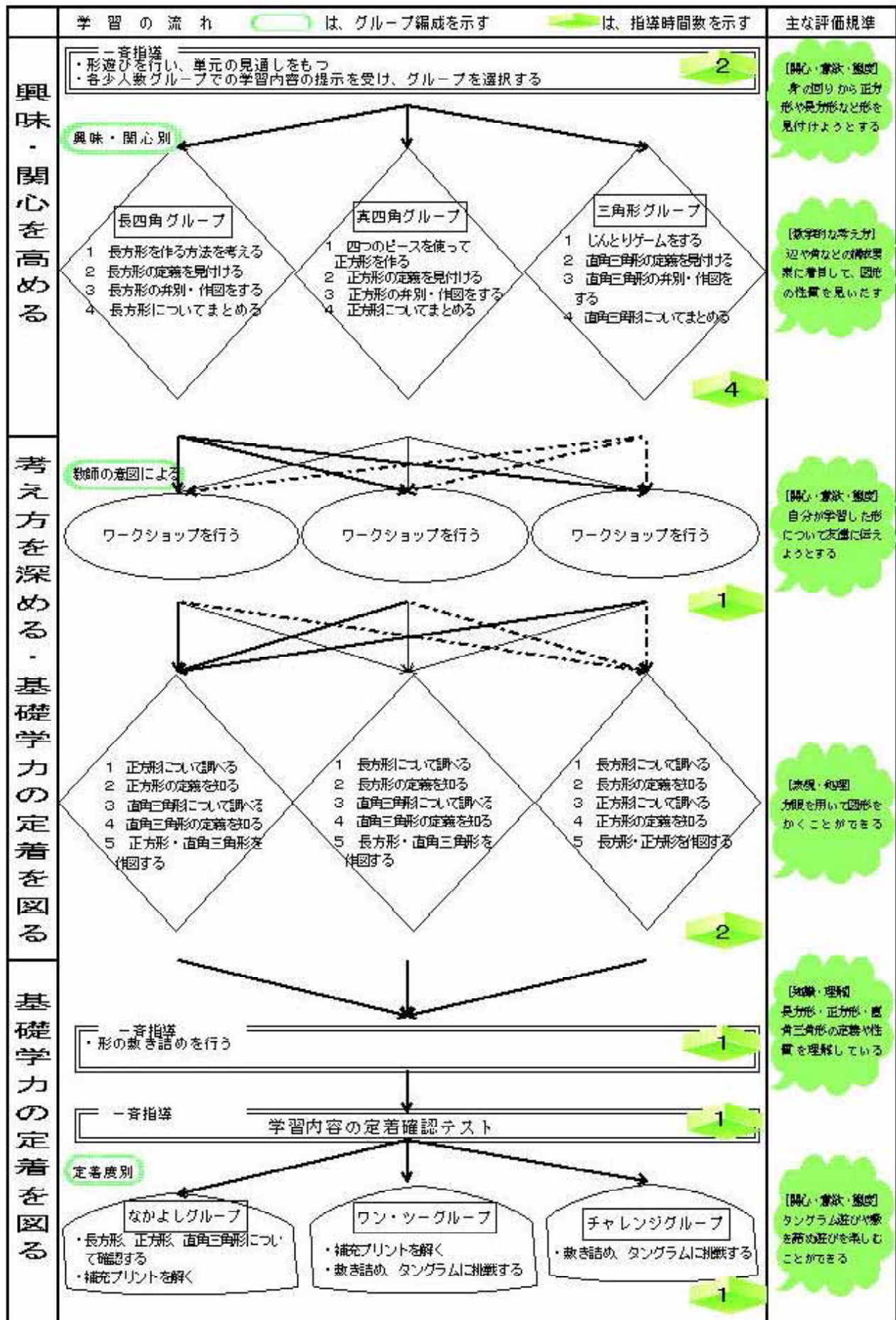
(2) 授業実践の概要

単元のデザインに基づいて授業実践を行った。6頁【資料1】は単元「四角形をしらべよう」のデザイン、7頁【資料2】は児童の興味・関心を高める少人数指導の授業実践の一場面、【資料3】は児童相互の考え方を深める少人数指導の授業実践の一部である。なお、資料中の T は教師の主発問を、C は児童の反応を表す。また、吹き出しは、児童のつぶやきや発言を表す。







【図2】小学校算数科「図形領域」における単元のデザイン

【資料1】単元「四角形をしらべよう」のデザイン



【資料2】児童の興味・関心を高める少人数指導の授業実践の概要（3/12時間）

長四角グループ（6人） 学習活動及び児童の様子	真四角グループ（8人） 学習活動及び児童の様子	三角形グループ（21人） 学習活動及び児童の様子
<p>1 新しい用語を知る T 四角形はどんな形ですか C 四本の直線で囲まれている形です T 直線のことを辺、角の点を頂点といいます T 四角形は辺は何本、頂点はいくつありますか C 辺は四本あります C 頂点は四つあります</p> <p>2 学習問題・課題を把握する T こんなぐちゃぐちゃな紙（不定の形の紙を提示しながら）長四角が作れるかな</p> <p>3 自力解決を行う</p>  <p>まっすぐになるように写にう</p> <p>まっすぐになるようにおらんくちや</p> <p>4 考えを交流する T 自分の考えを友達に説明しましょう C 定規を使って辺がまっすぐになるように引きました C 辺がまっすぐになるように気を付けておりました</p> <p>5 長方形という用語を知る T 今日みんなが作ると思っていた四角形を長方形といいます。みんなが作った長方形は正確かな。正確な長方形かどうか明日確かめてみましょう</p> <p>6 今日の学習を振り返る T 今日の学習を振り返っての感想や明日ががんばりたいことを書きましょう</p>	<p>1 新しい用語を知る T 四角形はどんな形ですか C 四本の直線で囲まれている形です T 直線のことを辺、角の点を頂点といいます T 四角形は辺は何本、頂点はいくつありますか C 辺は四本で頂点は四つあります</p> <p>2 学習問題・課題を把握する T 四つのピースを使って真四角を作ってみましょう</p> <p>3 自力解決を行う T パズルが完成したら、どんなところに気を付けてやらったのか友達に説明できるようにしましょう</p>  <p>思ったよりむずかしいなあ</p> <p>4 考えを交流する T 自分のやり方を友達に説明しましょう C 角の形に気を付けてやりました C ぼくも角の形に気を付けてやりました C 角が四角くなっているものをはじっこにもっていつて組み立てていきました T 真四角を作るにはどこに気を付けてながら組み立てるといいですか C 角の形です</p> <p>5 正方形という用語を知る T みんなが真四角といっているこの四角形の正しい名前は、正方形です。明日は正方形のひみつを見つけていきましょう</p> <p>6 今日の学習を振り返る T 今日の学習を振り返っての感想や、明日ががんばりたいことを書きましょう</p>	<p>1 学習問題を把握する T 陣取りゲームをしましょう</p>  <p>いろいろな形の三角形がきたぞ</p> <p>T どんな形ができましたか C 三角形</p> <p>2 新しい用語を知る T 三角形はどんな形ですか C 三本の直線で囲まれている形です T 直線のことを辺、角の点を頂点といいます T 三角形は辺は何本、頂点はいくつありますか C 辺は三本で、頂点は三つあります</p> <p>3 自力解決を行う T 陣取りゲームでできた三角形を切り取って仲間分けをしましょう。なぜそのように分けたのか理由も書きましょう</p>  <p>4 考えを交流する T どんな三角形の仲間ができたのか四人グループになって話し合しましょう C 全部がとんがっている三角形の仲間を作りました C 頂点が三つともとんがっている三角形の仲間を作りました C 二つとんがっていて、一つはかっくとなっている三角形の仲間を作りました C 一つの角が四角くなっている三角形の仲間ができました</p> <p>5 直角三角形という用語を知る T こんな三角形（提示しながら）のことを直角三角形といいます。どんな三角形のことを直角三角形というかは、明日詳しく調べましょう</p>


授業の考察

- どの児童も学習活動に真剣に取り組むなど意欲的な様子が見られたのは、自分で学習グループを選択したことによるものと思われる。
- 多くの児童が、自分の考えを自分の言葉で発表することができたのは、発表する際の人数を六人以下にして行ったことや自分の考えをまとめる時間を保障したためと思われる。また、発表の途中で言葉に詰まったりすると、周りの児童が発表の手伝いをするといった場面も見受けられた。これは、発表する際の人数を少なくしたことによって児童に安心感が生まれたためと思われる。


【資料3】児童相互の考え方を深める少人数指導の授業実践の概要（7/12時間）

学 習 活 動 及 び 児 童 の 様 子

1 学習活動を把握する
T 今日は今まで勉強してきたことをお友達に教えてあげましょう。班の中で順番を決めて始めましょう



私は三角形について勉強しました。直角のかがある三角形のことを直角三角形といいます（直角を示す）。（活動の提示）ここにたくさん三角形があります。この中から直角三角形を見つけてください。



教師はファシリテーター（支援者）としてグループの活動を見守る

授業の考察

- 前時のまとめる活動を行っているときからどの児童も積極的に活動していた。今まで発表することに抵抗を示していた児童も、自分が学習したことを振り返りながらまとめる様子が見られた。本時では、自分がまとめたものを読み上げながら発表する児童、書かれていないことを付け足しながら発表する児童、自分が体験した活動を友達に説明し、友達にも同じ活動をさせる児童など、様々な発表の様子が見られた。これは、友達がまだ学習していないことについて、自分が教えてあげなければならないという意識が児童に働いたものと考える。できるだけ分かりやすく、楽しく発表しようと児童はそれぞれに工夫をしていた。これらのことから、学習の交流を図るために新しいグループを編成してワークショップを行ったことは、児童相互の考え方を深めただけでなく、児童の発表に対する意識も変えることができたと思われる。

5 実践結果の分析と考察

(1) 主体的に学習に取り組む児童の構成要素の育成状況

ア 「探究する力」の育成状況

【表5】は、「探究する力」の育成状況について、t検定の結果を表したものである。この結果から、有意差が認められたことが分かる。

事前テストでは、設定した時間、集中力が持続せずに、答えの多様さに欠けていた児童も多かったが、事後テストでは、設定した時間、集中して取り組み、幾通りもの答えを見付け出すことができる児童が多くなっていった。これは、授業の中で、児童の興味・関心に基づいてグループを選択させ学習を進めたことや問題解決の時間を十分に保障したことにより、解決に向けて集中して取り組む姿勢が身に付いたためと考える。

このことから、児童の興味・関心に基づいて学習内容を選択させ少人数グループを編成し、指導を行うように単元をデザインしたことは、毎時間の授業への興味を持続させ、活動に集中して取り組ませる上で効果があったといえる。また、少人数グループを編成し直して、個々の学びを交流し、体験するワークショップを行うなど、児童相互の考え方を深める少人数指導を取り入れたことは、学習への興味・関心を持続させるとともに「探究する力」を育成する上で効果があったといえる。

イ 「発する力」の育成状況

【表6】は、「発する力」の育成状況について、t検定の結果を表したものである。この結果から、有意差が認められたことが分かる。

事前テストでは、自分の考えを書くことができずに無答の児童が多かったが、事後テストでは、最低一つは自分の考えを書くことができる児童が多くなっていった。これは、授業の中で、自分の考えを書くことができないでいた児童に対してどのように書けばいいのかという視点を与えたことや、全員の児童が考えを書き終わるまでの時間を保障したためと考える。

【図3】は、「発する力」について授業におけるノートの記述内容を4頁【表3】の判断するための基準に従って判断・分析した結果をまとめたものである。この結果から、授業が進む毎にCと判断される児童が少なくなったことが分かる。特に第6

時では、Cと判断される児童はいなかった。第6時は、自分が学習してきた内容をまとめ、次の時間のワークショップの準備をする時間であった。児童は、自分が学習してきた内容を他のグループの友

【表5】 探究する力の育成状況

検定内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
探究する力	18.7	7.76	27.5	9.83	0.81	8.76	*

N=34 (単位:人)

「注」1 「探究する力」は、主題テストの設問1から設問3について正答数×1点の配当である
 2 事前テストは8月25日、事後テストは9月18日に実施した
 3 t検定(平均の差の検定)に用いた公式は次に示すとおりである

$$t = \frac{\bar{X}_2 - \bar{X}_1}{\sqrt{\frac{S_1^2 + S_2^2 - 2rS_1S_2}{n-1}}}$$

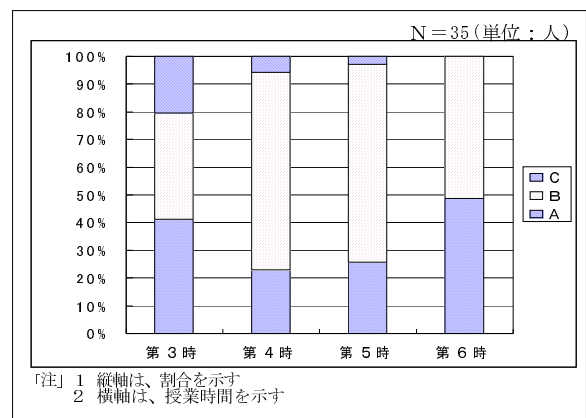
なお、 \bar{X}_1 と \bar{X}_2 は、事前と事後テストの平均点、 S_1 と S_2 は事前と事後テストの標準偏差、 r は相関係数、 n は人数を表す
 4 有意差の欄の*は、t検定において有意水準5%で有意差があることを示す

【表6】 発する力の育成状況

検定内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
発する力	2.0	1.99	2.6	1.46	0.74	2.57	*

N=34 (単位:人)

「注」1 「発する力」は、主題テストの設問4から設問5について、正答数×1点の配当である
 2~4 【表5】と同じ



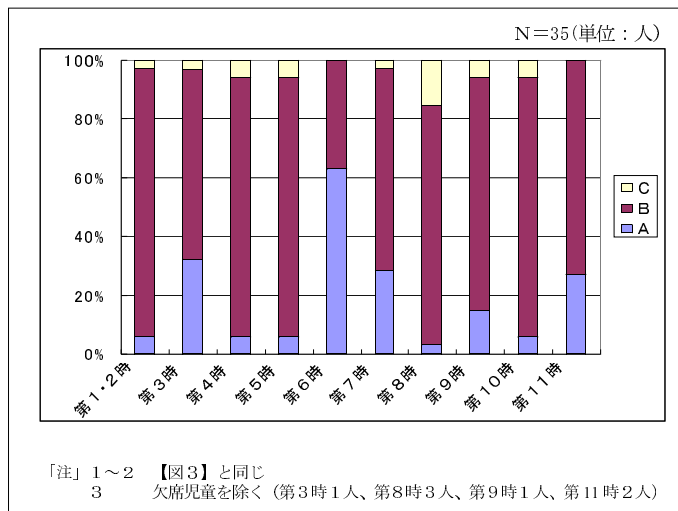
【図3】 ノートの記述内容の判断結果

達に分かりやすく伝えようと、表記を工夫したり、学習の体験をさせるための物を準備したりしていた。

これらのことから、考えを書く時間、発表をする時間など指導過程の中で重点を置く場面を決め、弾力的な時間運用を図りながら授業を行うように単元をデザインしたことは、「発する力」を育成する上で効果があったといえる。

ウ 「見つめる力」の育成状況

【図4】は、「見つめる力」の育成状況について、判断するための基準に従って児童の振り返りの記述を分析し判断した結果をまとめたものである。この結果から、毎時間80%以上の児童が、A（本時の学習感想及び次時の目標の両方を明記している）あるいはB（本時の学習感想または次時の目標のどちらか一方のみ記述している）と判断されていることが分かる。特に第6時では、Aと判断された児童が60%を超えている。これは、次の時間の学習活動がワークショップであることを児童に知らせたことにより、児童が自分の目標を容易にもつことができたためと考えられる。しかし、児童の多くは、学習を振り返り感想を書けるようになってはいるものの、次時の学習での見通しまで記述できるようにはなっていない。これは、振り返りの中で次時の学習について児童に示したものの、一人一人がしっかりと次時の学習内容を把握できなかったことによるものと思われる。



【図4】見つめる力の育成状況

このことから、次時の学習活動について児童にも分かるようにデザインを示したり、学習内容を分かりやすく提示したりする工夫が必要であると思われるものの、振り返りの時間を位置付けて指導を行うよう単元をデザインしたことは、「見つめる力」を育成する上で効果があったといえる。

以上、主体的に学習に取り組む児童の力の育成状況をみるために、三つの構成要素についてそれぞれ分析してきた。これらの結果から、小学校算数科「図形領域」において、主体的に学習に取り組む児童に必要な力の構成要素は育成されたものとする。

(2) 調査結果による分析と考察

ア 単元の学習内容の定着状況

【表7】は、「四角形をしらべよう」の学習終了時に学校で使用している市販のテストを用いて単元テストを実施し、その結果についてまとめたものである。

このことから、興味・関心を高める、児童相互の考え方を深める、基礎学力の定着を図るの順番で少人数指導を位置付けた単元のデザインに基づき、指導を行ったことは、児童に学習内容の定着を確実に図ることができたという点でも有効であったといえる。

イ 学習に取り組む意識の状況 (本資料においては省略する)

ウ 単元のデザインに基づいた授業についての意識の状況 (本資料においては省略する)

観点	正答率		
	100%	80%以上 100%未満	80%未満
知識・理解	29	5	1
表現・処理	34	1	0

【表7】学習内容の定着状況

6 主体的に学習に取り組む児童を育てる少人数指導に関する研究のまとめ

主体的に学習に取り組む児童を育てる少人数指導についての成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 学習活動の時間に満足している児童が少ないという実態をふまえ、各少人数グループで児童全員が自分の答えを見つけたり考えをまとめたりするまで自力解決の時間を多く設定したり、児童全員が発表することができるように時間を多く設定したり、時間を弾力的に活用するよう位置付けた単元のデザインは、「探究する力」を育成する上で効果があった。

イ 発表することに対して抵抗を示す児童が多いという実態をふまえ、発表する際のグループ編成を工夫したり、興味・関心別の少人数グループを編成し学習を進めたりする単元のデザインは、「発する力」を育成する上で効果があった。

ウ 毎時間の終末時に、自分の学習活動について自己評価をし、学習感想を記述する振り返りの時間を位置付けた単元のデザインは、児童の「見つめる力」を育成する上で効果があった。

エ 目的や意図に応じた少人数指導を、「児童の興味・関心を高める」「児童相互の考え方を深める」「基礎学力の定着を図る」の順番で位置付け、指導を行ったことは、児童の「探究する力」「発する力」「見つめる力」の育成につながった。このことから、児童の学習意欲が向上するであろうという見通しをもつことができた。

(2) 課題

単元全体の見通しをもつことができるように、教師には単元のデザインを示すことができたが、次時の学習活動について分かるように、児童にも単元のデザインを提示することが必要であると思われる。

以上のことから、目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元をデザインし、それに基づいた授業実践は、主体的に学習に取り組む児童を育てる上で、有効であったと考えられる。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この研究は、目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元をデザインすることをとおして、主体的に学習に取り組む児童を育てる少人数指導について明らかにし、学習指導の改善に役立てようとするものであった。その結果を、「探究する力」「発する力」「見つめる力」の三つ力の育成状況について分析と考察を加えることにより、研究仮説の有効性の検討を行ってきた。その結果、目的や意図に応じた少人数指導を取り入れた単元のデザインに基づく学習指導は、主体的に学習に取り組む児童を育てる上で有効であることが確かめられた。

2 今後の課題

今後は、小学校算数科における他領域での単元のデザインや他教科における単元のデザインについても探っていきたい。

【参考文献】

- 吉崎静夫編集 「子ども主体の授業をつくる－授業づくりの視点と方法－」 ぎょうせい 1997年
児島邦宏編集 「小学校少人数指導実施の手引」 明治図書 2002年